

第 73 回山形県自作視聴覚教材コンクール 全体講評【社会教育部門】

「紙しばい」については、地域の歴史や自然・文化等を題材に、郷土愛を育もうとする作品が多かった。一方で、高齢者や家族の在り方、町の近未来を描いたもの等、現代的な課題を題材とした意欲作も見られた。いずれの作品も制作の意図が明確に感じられる脚本内容で、作者の思いを強く感じる事ができた。技術性においても、優れた画力に支えられた秀作が多く、グラフィックソフト等で作画された作品も出てきている。

デジタルメディア全盛の現代において、あたたかさを添えた手作りの紙しばいが、地域独自の文化を後世に伝えることに大きな意義を感じる。

「映像作品等」については、制作者の「伝えたい」という強い思いが感じられる作品が多かった。ドキュメンタリー風に人物を熱心に追っており心情に深く迫る作品や、人口減少・少子化といった地域課題への問題提起になっている作品があった。どれも非常にレベルが高いと感じ、優越をつけるのが大変難しく、見ごたえのある作品ばかりであった。また、映像や写真の切り取り方や見せ方等も含めて、制作者の編集技術が向上していて、すばらしい。

課題は、一つの作品に多くの内容を盛り込みすぎていると感じられるものがあったことである。内容の精選や整理等、改善の余地があると感じた。